地域づくり活動の行動計画

独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター

2024年度
第１回地域緩和ケア連携調整員研修　ベーシックコース

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名 (職種)
熊本医療センター・腫瘍内科 （緩和ケアチーム・がん相談支援）	榮　達智
熊本医療センター・看護部（がん相談支援室）	松本　恵里子
熊本医療センター・緩和ケア室(緩和ケアチーム)	大塚　美里
熊本医療センター・地域連携室（がん相談支援室）	村上　良子
熊本医療センター・薬剤部（緩和ケアチーム）	馬場　結子

① 選定した地域の課題

　自施設は熊本市内に位置しており担当する二次医療圏は、県内でもがん診療連携拠点病院が多数ある地域である。熊本市内は緩和ケア病棟や訪問看護ステーションの数も多く、近隣の病院や在宅診療の方との顔の見える関係性は比較的できている。自施設で問題となっているのは、二次医療圏の熊本市以外の過疎地域での療養であり、患者が住み慣れた地域での訪問診療や訪問看護への連携が困難であると感じている。

・顔の見える連携先との構築方法

・市内は問題なくできているが、過疎地域と顔の見える連携体制を整える

・在宅療養と連携後の、バックベッドの確保。当院は基本的にバックベッドにできない。患者さん・家族への教育。

・連携先に使用中の採用薬がなかったりすることで調整が難しい、TPNなどの調整などを行える薬局はどこが把握しているか不明

② どんな地域を目指すのか（二次医療圏）

・二次医療圏の熊本市以外の地域の医療資源が乏しい地域でも、できるだけ患者さんのニーズを満たせるようにしていく。

・二次医療圏以外の過疎地域との顔の見える連携の構築と、情報共有を図ることで、スムーズな連携につなげる

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

❖ **地域との関係性構築や多職種の連携（顔の見える連携）**

- 熊本市外の二次医療圏の地域と顔の見える連携を行い対応可能な場所を見つけていく。
- 熊本県内で行われている既存の研修会（講和会など）に参加して親しみやすい意見を発信する。
- 緩和ケアを推進できるように院内・院外の多職種を巻き込み、教育できるようにする。
- 地域連携室と連携し、訪問看護ステーション立ち上げなどの情報を共有していく。
- 介護施設などへのアプローチ方法を考える。
- 熊本県の訪問看護ステーションの状況などを看護協会の訪問看護ステーション事務局に確認したが6－7割のみの加入で、どこまでの対応ができるかの把握が難しい。把握できる方法が他にないのか確認してみる。

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

1. ホームページに当院での出前講座の受付や緩和ケアの相談など受けていることの公表を再度行う
（できるだけ早急に）

2. 訪問看護ステーション、近隣施設との交流

⇒・県内で行われている研修会や施設が開く研修会などに参加。（随時）

・当院で研修会(まずは今の熊本県緩和ケアカンファレンス)を開催し呼びかける。（年度内に）

・関わりが少ない地域での個別のケースがあれば、Web等を使って振り返りを行う。特に過疎地域や交流が乏しい施設をターゲットにする。
（来年度までに）

3. 二次医療圏とそれに隣接する場所の緩和ケアの対応ができる診療所や施設などの情報収集をする。
（随時）